

ICT を利用した学修支援システムの状況と検証

加藤成明*1 ・ 田中雅章*2

Email: nkato@asu.ac.jp , m.tanaka@ao-g.jp

*1: 愛知産業大学経営学部総合経営学科

*2: ユマニテク看護助産専門学校

◎Key Words LMS , 学修 , GPA

1. はじめに

平成 14 年 8 月 5 日の中央教育審議会において「大学の質の保証に係わる新たなシステムの構築について(答申)」や平成 16 年の学校教育法の改正により、大学の評価は第三者評価からさらに質の保証へ社会的責任を果すために大学の質的水準の確保を図る必要性を唱えた。大学の質の保証とは、いったい誰のために何を保証するものであるのだろうか。それは高い授業料を払う学生に対して、大学が提供する教育が質の高い確かなものであり、与えられる学位が社会的にも信用されることを「保証」と考える。では、社会的に信用されるには、これも中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」(答申)の第 4 章で述べているように「・・・情報公開といった仕組みにより、教育の質の保証と向上が図られる」を具現化することである。

当大学も例外ではなく、2014 年度から大学の質の保証を図る新たなシステムを導入し、大学の質の向上への改革がおこなわれた。そのため、各授業担当者は事務処理に追われ、忙しい日々を送っているのが現状である。本研究は、講義に伴う学生の学習過程に対する事務管理処理を分析・考察し、この改革が本当に学生のためになっているかを検証するものである。

2. 学修支援システム

2014 年 4 月愛知産業大学では、ASU 教育 2014 という名の下「就業できる大学へ」をスローガンとして、学生へ 7 つのチャレンジとして、7 つのスローガンを打ち出した。

①これまでの学修学習目標を明確に設定しよう。②自宅での学習を充実させよう。③授業の理解度をアップさせよう。④出席率 100%にチャレンジしよう。⑤時間管理を身に着けよう。⑥過程を重視する考えを身につけよう。⑦これまでの学修を振り返ってみよう。

この 7 つのスローガンを大雑把にまとめると、欠席は 2 回まで、宿題の義務化、欠席の場合はメールで学校へ連絡が努力義務である。宿題、受講ノート等の内容と受講態度等の能動的な受講と定期試験、小テストなど学習成果評価の総合が、ABCD で評価される成績となる。

現状のシステムは、学生の負担もさることながら、教員の負担も多く毎回の宿題と受講ノートへの評価とコメント記入。宿題の提出による出席の把握と LMS(unipa)¹⁾への出欠の入力及び受講ノート・宿題の評価をエクセルシートへの入力。受講ノート・宿題をエ

ビデンスとして PDF 化し、PC に保存をしている。これらの作業を担当科目ごとに実施をしている。

次に授業の一例をあげる。コンピュータ基礎 I・II を受講している学生は、授業開始と同時に宿題を提出する。講義を聴きながら、出題された課題を作成し UNIPA にて提出する。そしてノート(ワークシート)の作成を義務付けている。

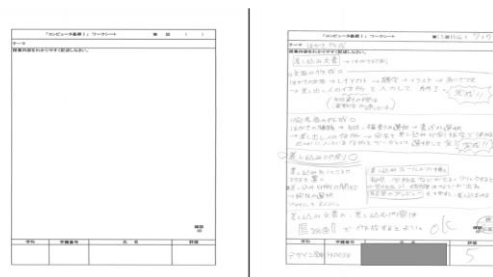


図 1 ワークシート 図 2 記入後のワークシート

図 1 にコンピュータ基礎 I のワークシートを示す。このワークシートを宿題や課題あるいはノートとして使用している。図 2 は学生がワークシートへ入力したもので、これに教員の採点とコメント等が追加され、学生へ返却される。

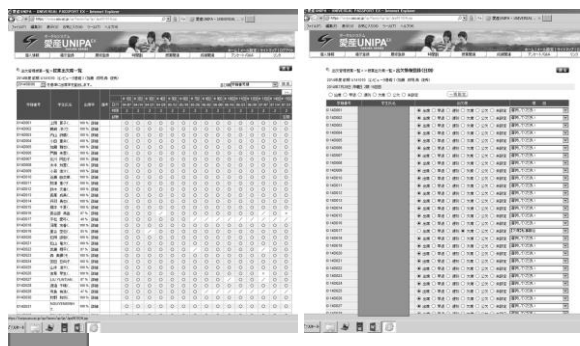


図 3 出欠表示画面 図 4 出欠入力画面

図 4 に unipa の出欠入力画面を示す。ラジオボタンの選択で学生の出欠を入力する。図 3 は学生の出欠一覧である。当該学生は自分の分しか見えないように配慮されている。

図 6 に課題の例を示す。図 5 は学生から提出された課題に対して、教員コメント欄と点数欄へ入力する画面である。また、二度手間であるがエクセルへ宿題・課題点の入力シートを作成し、毎回の宿題の点数、課

題の点数等を入力する。その他にも、欠席した場合の補完学習の点数を入力するシートもある。なお評価基準はシラバスに明記してある。毎回、エクセルの評価シートに出欠、宿題や課題の点数を入力した結果、成績 ABCD が表示される。担当教員は、これを見ながら定期試験終了後に成績を unipa に入力し、データベースへ保存される。



図5 課題コメント記入



図6 課題

3. 結果成果

成果を出席率とGPA及びアンケートで、以下の通り分析してみた。

3.1 出席率の変化

表1 出席率

年	2013年	2014年	2015年
受講者数	161名	182名	243名
出席率	81%	91%	92%

2013年の出席率は81%で、2014年は91%に大きく改善され、2015年は92%へとわずかに改善された。

表1は、2013年から2015年のコンピュータ基礎Iの出席率を比較してみる。2013年の出席率は81%で、2014年は91%に大きく改善され、2015年は92%へとわずかに改善された。

3.2 授業外学習時間の変化

2013年から2015年までの学科別一日当たりの平均授業外学習時間数を表2に、学科別の平均授業外学習時間数の推移を図7示す。図表のようにASU教育2014が施行された2014年は2013年と比べ平均授業外学習時間が増加しているが、2015年は前年よりやや低下している。

何れの年も総合経営学科の授業外学習時間が最も少なく、続いて建築学科、デザイン学科の順になっている。

表2 平均授業外学習時間

年	デザイン	建築	総合経営	全学科
2013年	1.27	0.90	0.87	0.97
2014年	2.34	1.60	1.17	1.59
2015年	2.03	1.35	1.09	1.41

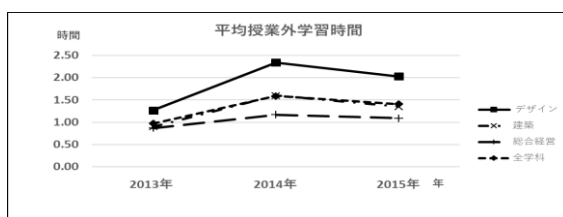


図7 平均授業外学習時間数の推移

3.3 成績の変化

2013年から2015年までの1年生のGPAを表3に示す。2014年は総合経営学科を除き全体的にGPAは高くなっている。2015年度は総合経営学科のGPAは高くなっているが、逆に他の学科は2014年と比較すると低くなっている。

表3 学科別 GPA 比較

学科名	2013年平均GPA	2014年平均GPA	2015年平均GPA
建築学科	2.04	2.66	2.58
デザイン学科	1.8	2.92	2.59
総合経営学科	1.73	1.6	1.96
大学全体	1.86	2.39	2.38

4. おわりに

このシステムは、テストの点数による評価だけではなく、学習におけるパフォーマンスと学習プロセスに対する評価を実現し、学習過程におけるエビデンスを残している。成績をつける作業は、学習成果の確認や指導後に成績をつけて学生たちに返すことに目がいきがちである。しかし、評価作業によって得られた詳細な情報を授業に生かし授業を改善していくことや学生たちを見つめ直すためのものにしていくことが大切である。

日常の学習過程の中でどのような評価活動を行い、それをもとに授業をどのように改善していけばいいのか。学生の学習過程は、何をどのように学び、どのような成果が得られたかという学習の軌跡であり、教員や友だち、保護者や地域の人々とのかかわりの中での成長の足跡にもなる。今まで用いてきたノートやワークシート、作品などによる過程の評価も、トヨタ自動車の「カイゼン」ではないが工夫、改善していくことで学生の内面や思考の様子を知る重要な役割を果たす。现阶段で、社会人力と言われる就業力が育成されたかの判断は難しい。学習時間とGPAについては中だるみの傾向が見えている。しかし、自習用コンピュータ室が不足している状態が続いていることから、学生は課題等で取り組んでいることが伺える。

以上

注

1) unipa:ユニバーサルパスポートシステムというLMSの一種で学生の学習支援システム。

参考文献・資料

- 1) 中央教育審議会、「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について(答申)」, 文部科学省, 平成14年8月5日
- 2) 日本私立大学協会、「質保証のための新システム—競争・評価・監視は何を生むか—」, アルカディア学報(教育学術新聞掲載コラム), No.227
- 3) 宮浦崇・山田勉・鳥居朋子・青山佳世「大学における内部質保証の実現に向けた取り組み—自己点検・評価活動および教学改善活動の現状と課題—」立命館高等教育研究11号, 2011年